

詳細検討対象地域の個票項目（案）

- 1 . 対象
- 2 . Udvardy の地域区分
- 3 . 自然の概要
- 4 . 該当すると思われるクライテリアとその理由
- 5 . 国内外の既登録地等との比較
- 6 . その他特記事項

屋久島

1. 対象

鹿児島県

海岸部から宮乃浦岳を中心とした中央山岳地帯

2. Udvardy の地域区分

界：旧北界(The Palaearctic Realm)

地区：常緑樹林(日本)(Japanese Evergreen Forest)

群系：亜熱帯および温帯雨林(Subtropical and temperate rain forests or woodlands)

3. 自然の概要

屋久島は、世界的に特異な樹齢数千年のヤクスギをはじめ、多くの固有種や絶滅のおそれのある動植物などを含む生物相を有するとともに、海岸部から亜高山帯に及ぶ植生の典型的な垂直分布がみられるなど、特異な生態系とすぐれた自然景観を有している地域である。

(1) 動物相

九州本土から切り離されて以来の一万五千年に及ぶ歴史と変化に富む植生からなる原始性豊かな生息環境は、多くの屋久島固有の亜種を生み出してきた。哺乳類は、ヤクシカ、ヤクシマザル(通称ヤクザル)など四種の固有亜種を含む十六種が確認されている。

鳥類は、ヤクシマアカコッコ、タネコマドリ(通称ヤクコマドリ)等四種の固有亜種を含む百五十種が知られており、また、このうちアカヒゲ、カラスバト等四種が天然記念物に指定されている。

この他、爬虫類が十五種、両生類が八種、昆虫類が約千九百種確認されるなど、屋久島の動物相は、面積の小さい島としては極めて豊富である。

(2) 植物相

植物相については、海岸付近のアコウ等の亜熱帯植生から、タブ、シイ、カシ等の暖帯植生、モミ、ヤマグルマ等の温帯植生を経てヤクザサ、シャクナゲ等の亜高山帯植生に至る多様な植生の垂直分布が顕著にみられる。また、樹齢数千年に及ぶとされる巨大なヤクスギを含む屋久島固有の林相を呈する原生的な天然林など、本土とは異なる特異な森林植生を有している。さらに、地理的特性から、固有種等を含む千九百種以上の種が分布しており、固有植物九十四種、分布の南限種は二百種以上、北限種も多数確認されている。また、日本本

土の自然植生に通常見られるブナなどの冷温帯性落葉広葉樹林が欠如していることや面積の小さい島にもかかわらず蘇苔類が六百種に及ぶなど本土とは大きく異なった生態を有している。

4．該当すると思われるクライテリアとその理由

-) 進行しつつある重要な地質学的プロセス、生物学的進化を示す顕著な見本。顕著な植生の垂直分布は、生態学的に独特な生物の変化過程を示していると考えられる。
-) 例外的な自然美を表す自然現象、構造、特徴であって、唯一の希な又は最高のもを含む。当該地域内には数千年の樹齢を持つ大径のスギが生育している。
-) 残存する絶滅のおそれのある動植物種の最も重要で意義のある生息地。気候、標高と特殊な植生の垂直分布は独特な生態系を作り上げており、多くの固有種、亜種を含んでいる。

5．海外の既登録地、候補地との比較

屋久島は、樹齢数千年に及ぶとされる巨大なヤクスギを含む屋久島固有の林相を呈する原生的な天然林など、本土とは異なる特異な森林植生を有している。

日本の常緑樹林が存在する生物地理学区系の中で、国連のリストで国立公園として分類される保護地域が他に14ある。このうち幾つかは日本列島の島々にあり、特に傑出するものは西表、西海、小笠原などである。屋久島は天然スギの原生林があるという点でこれらの地域に比べて珍しい。

屋久島は旧北亜区の要素と東洋亜区の要素が入り交じっており、植物種の多様性はこの2つの生物地理学上の区域の境界にあるためである。これにより視覚上（風景的な）魅力に加え自然科学的な面での価値の幅も広がっている。

現在世界遺産のリストには13の島嶼またはその一部が登録されている。屋久島はこのうち3つの島 南西タスマニア、コルシカ島の Scandola、カナリー諸島の Garajonay に幾つか共通する点がある。これらの島は皆比較的アクセスが不便であり、景観のすぐれた場所に位置する保護地域である。Scandola を除けば固有の動植物の生息地を有し、またどの島も周辺地域の開発による圧力のもとにさらされている。どの島も海水面から山頂までの変化に富んでいる。

屋久島は北西太平洋地域の温帯針葉樹林と同じ部類に入り、同地域には自然遺産に3ヶ所（オリンピック、ヨセミテ、レッドウッズ）登録されており、かなりの範囲と規模及び生物量を有する原生林が保護されている。しかし、地理的位置や特殊な種構成から、屋久島地域は日本における人為の影響を受けていない老齢針葉樹林として最も傑出している。

白神山地

1. 対象

青森県、秋田県

青森県南西部と秋田県北西部の県境にまたがる山岳地帯

2. Udvardy の地域区分

界： 旧北界(The Palaearctic Realm)

地区： 夏緑樹林(東アジア)(Oriental Deciduous Forest)

群系： 常緑広葉樹林および低木林、疎林(Evergreen sclerophyllous forests, scrubs or woodlands)

3. 自然の概要

白神山地のブナ林は、純度の高さや優れた原生状態の保存、動植物相の多様性で世界的に特異な森林であり、氷河期以降の新しいブナ林の東アジアにおける代表的なものである。また、様々な群落系、更新のステージを示しつつ存在している生態学的に進行中のプロセスとして顕著な見本となっている。

(1) 動物相

当該地域には豊かなブナ林を主な生息地として、多くの哺乳類、鳥類、昆虫類、は虫類、両生類、淡水魚類等が生息している。

中大型哺乳類に関しては、東北地方に分布する中大型哺乳類十六種のうち、非常に多い降雪量のため生息が困難なニホンジカ、イノシシを除く十四種が生息する。この中には、ニホンザル、ツキノワグマや特別天然記念物に指定されているニホンカモシカも含まれる。

鳥類についてみれば、天然記念物に指定されているイヌワシやクマゲラ、その他クマタカ、シノリガモ等貴重な種を含め八十四種の生息が確認されている。

昆虫類も豊富で、約二千種の生息が確認されている。この中には、分布の北限又は南限となっているものもある。

(2) 植物相

当該地域には、我が国の冷温帯における気候的極相であるブナ林が原生的な状態で残存している。林内や山頂部の風衝地、崖すい、露頭部の岩れき地等において五百種以上の多様な植物が確認されている。

この中には、アオモリマンテマ等の地域固有の植物や、トガクシショウマ等の分布が極めて限られている種、北限・南限に当たる種、あるいは高山植物などの貴重な植物も含まれている。

4. 該当すると思われるクライテリアとその理由

- () 進行しつつある重要な地質学的プロセス、生物学的進化を示す顕著な見本。8,000年から12,000年を生き残ってきた地域の典型的なブナ林のほとんど完全な顕著な事例である。
- () 例外的な自然美を現す自然現象、構造、特徴であって、唯一の、希な又は最高のものを含むもの。白神山地の景観と原始的な状態は、野生的であり、東アジアにはほとんど見られない。
- () 残存する絶滅の恐れのある動植物種の最も重要かつ意義のある生息地。多くの固有種かつ絶滅危惧種が推薦地域内で発生している。

5. 国内外の既登録地等との比較

日本では、ブナ林は白山生物圏保護区(18,000haのコアゾーン)や上信越国立公園等、他の多くの保護地域で見られる。

近くの十和田八幡平国立公園は実際には白神山地より広大なブナ林の広がりを有しているが、高速道路により分断され、多数の観光施設が設置されている。白神山地は広大な原始的な状態のブナの残存地域である。また、生物地理学区系の落葉樹林では中国及び韓国に8つの地域があるが、どれも白神と同じような *Fagus crenata* の生態系を有してはいない。

白神山地は、かつて北日本の丘陵地や山の斜面を覆っていた冷温帯ブナ林の残存している最大の原生地帯である。ブナ属は新生代に進化が始まり、北半球に拡大していった。今日のブナ属の分布は不連続的であり、現存する11種のブナ属の内2種が日本固有種である。他のブナ種が群生する世界遺産地域は、中国の Huangshan とアメリカ合衆国のグレートスモーキーであるが、どちらの地域でも白神のような主要な特徴を有さない。

白神山地の規模及び生物種の数において、世界遺産地域であるスペインのガロジョネイ(1989年登録)に類似している。ガロジョネイの登録の論拠は、既に消え去った植物群落の最後で最良の残存物であるということであり、残存化石林ともいべきものである。白神山地に関しては、かつて北日本を覆っていたブナ林の最後で最良の遺物であり、その科学的及び保護の重要性はこの事実に由来するものである。